

## MAIN HEADLINE ON RIGHT

### 黒島の歴史のみどころ

#### BOX 1

##### 本村集落/庄屋敷跡/興禅寺

本村は14世紀頃から続く、黒島で最も古い仏教集落です。島の仏教徒は後から来た潜伏キリシタンと共存しつつ過度に干渉しないようにしていました。上の写真の公園は「絵踏」が行われていた庄屋敷跡です。

公園に隣接する興禅寺は、潜伏キリシタンが仏教徒を装ってマリア像に見立てた観音菩薩(マリア観音)に祈りを捧げた場所です。

#### Caption

興禅寺のマリア観音 (現存しません)

#### Speech Bubble

寄進者として潜伏キリシタンの名前が刻まれており、潜伏キリシタンと興禅寺の密接な関係がうかがえます。

#### Captions

本村集落

庄屋敷跡

興禅寺の梵鐘

#### BOX 2

##### 蕨集落

黒島南部の蕨・田代一帯には平戸藩の馬牧場がありました。1802年に牧場は廃止され、跡地への開拓移住が奨励されました。この島には外海地域などから多くの潜伏キリシタンが移住し、海岸近くの斜面地に家を建て、ひそかに信仰を続けました。蕨集落では、海岸から防風林、住居、畑と一列に並ぶ当時の土地利用の様子が今も残されています。

#### BOX 3

##### 潜伏キリシタンの墓地 (仕切牧墓地)

仕切牧墓地は、1880年代にカトリック共同墓地ができるまで使われていた蕨集落の潜伏キリシタンの墓地です。黒島の仏教墓は墓石の正面を西に向けて建ててあります。しかし、この墓地には東に向けて建てられた墓もあります。東向きの墓の中には近代に建てられた墓がないことから、潜伏キリシタンの墓と考えられています。

#### Captions

東

西

\*敷地内は立ち入り禁止

## **BOX 4**

### **潜伏キリシタンの指導者屋敷跡**

この場所は黒島の潜伏キリシタンの共同体で指導者を務めた出口家の屋敷跡です。解禁前年の1872年、黒島の信徒たちはひそかに島に神父を招き、ここで初のミサが行われました。屋敷はキリスト教解禁後仮の聖堂となり、1879年に島の中心に最初の教会堂が建てられるまで使われていました。黒島の聖地の一つとして石碑が建てられ、信仰復活の地として顕彰されています。